2024年4月27日

▼通信教育部　学習ガイダンス▲

# 日本文学科における、文学研究・言語研究

文学部日本文学科　加藤昌嘉

▼文学部日本文学科で、授業を履修し、読解・調査を進め、リポートを執筆する、姿勢や方法について解説します。以下のブロックに分けて話します。

**i　リポート・論文とは、どういうものか？**

**ii　どのような段取りで進めるのか？**

**iii　参考文献を探すコツ**

**iv　オンラインデータベースの使い方**

**v　文献を使うときの注意点**

**vi　リポートを、どのような形に仕上げるのか？**

▼『学習のしおり2024』46～49頁、72～80頁、96頁以降を参照。

## i　リポート・論文とは、どういうものか？

▼次の文章は、

◎戸田山和久（とだやまかずひさ）『最新版　論文の教室―レポートから卒論まで―』（NHKブックス、2022年）

の一節です。読んでみましょう。

（1）**論文には問いがある。**　論文というのは、「なぜ……なのか」「われわれは……すべきか」「……と……の違いは何か」などといった明確な問いを立て、それに答えを与えることを目指す文章だ。　…中略…

（2）**論文には主張がある。**　問いがあるということは、問いに対する答えがあるということだ。だから、論文を書くために大切なのは、自分の主張を自分の責任で引き受ける勇気、つまり「何ごとかを言いきる勇気」だ。　…中略…

（3）**論文には論証がある。**　だからといって、「動物に権利はあるか？　私はあると思う。終わり」では論文ではない。問いと答えだけでは論文にならないのである。論文には、自分の答えを読み手に納得させるための論証が必要である。論証とは、自分の答えを論理的にサポートする証拠を効果的に配列したものことだ。　…中略…

【鉄則５】論文には次の三つの柱がある。

（１）与えられた問い、あるいは自分で立てた問いに対して、

（２）一つの明確な答えを主張し、

（３）その主張を論理的に裏づけるための事実的・理論的な根拠を提示して主張を論証する。

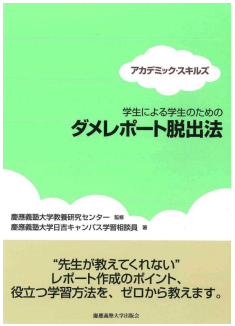
これが論文の定義だ。

（４１～４５頁／波線は加藤が付した）

▼リポート・論文が、「問い」→「根拠」→「結論」という骨格を持つものであることは、以下の本でも説かれています。

◎慶應義塾大学教養研究センター 監修『アカデミック・スキルズ　学生による学生のための　ダメレポート脱出法』（慶應義塾大学出版会、２０１４年）

◎石井一成（いしいかずなり）『ゼロからわかる　大学生のための　レポート・論文の書き方』（ナツメ社、２０１１年）




▼前掲『論文の教室』１４０頁では、例題「日本の科学技術における研究力低下について論じなさい」に対する、様々な「問い」の具体例が挙げられています。

| ぶつける問い | 取りだされる問いの例 |
|---|---|
| 本当に？（信憑性） | 日本の科学技術研究力は本当に低下しているのか |
| どういう意味？（定義） | そもそも研究力が「低下する」ってどういうことか／国の「研究力」ってどう定義されるのか（どうやって計るのか） |
| いつ（から／まで）？（時間） | いつから日本の研究力は低下しはじめたのか／いつから研究力低下が問題視されるようになったのか／研究力低下が問題になったのはこれが最初か |
| どこで？（空間） | 他の国で同じような研究力低下は起きていないか（問題視されてないか） |
| だれ？（主体） | だれが研究力低下を指摘しているのか（憂慮しているのか）／だれの研究力が低下しているのか（と言われているのか） |
| いかにして？（経緯） | どのような過程を経て研究力が低下してきたのか（急にか、徐々にか） |
| どんなで？（様態） | 研究力低下の現状はどうなっているのか |
| なぜ（1）？（原因） | 研究力低下の原因は何か |
| なぜ（2）？（根拠・理由） | どういう根拠に基づいて研究力低下が起きていると言われているのか |
| なんのため？（目的） | 研究力低下を指摘している人は何のためにそれをしているのか |
| どうなる？（結果） | 研究力が低下するとどうなるのか |
| 他ではどうか？（比較） | 分野によって研究力の低下の状況に違いがあるか／大学・企業・公的研究機関によって研究力の低下の状況に違いがあるか |
| これについては？（特殊化） | かくかくしかじかの現象が起きているが、これも研究力低下現象の一つなのだろうか |
| これだけか？（一般化） | 研究力以外の国力も落ちているのではないか／研究力低下は日本の全体的な衰退の一つの現れなのではないか |
| すべてそうなのか？（限定） | すべての分野の研究力が落ちているのか |
| だからどうなの？（価値評価） | そもそも研究力低下って困ったことなのか |
| どうすべきか？（当為） | そもそも研究力を回復させるべきか／研究力低下にどのように対応すべきか |
| どうやって？（方法） | どのようにして研究力を回復させたらよいのか |

「問い」というのは、「○○は××か?」という疑問文のことです。
「なぜ why」「どのように how」「何 what」「いつ when」など、どんな疑問詞を使うかが、リポート・論文の骨格を決める重要ポイントになります。

▼法政大学文学部では、以下のような呼び分けがありますが、骨格は同じです。
・リポート（レポート）＝2千字～4千字程度（多くは、教員が「問い」を設定）
・論文（卒業論文）　＝2万字程度（学生自身が「問い」を設定）

## ii　どのような段取りで進めるのか？

▼『通信学習シラバス・設題総覧２０２４』日本文5頁以降の設題を見てみましょう。
＊『万葉集』における大伴家持の歌について論じなさい。【特講・上代】
＊現代日本語のテンスについて述べなさい。【日本文法論】
＊夏目漱石『こころ』、森鷗外『舞姫』を読み、二つの作品を比較し、主人公たちがその時代のなかで向き合わねばならなかった問題について論じなさい。
【特講・近代】
＊中古（平安時代）に9種類あった動詞の活用の種類は、どのような変化を経て近代（明治時代以降）5種類になったか、語例や活用表を挙げて詳しく述べなさい。
【日本言語史】

通信学習科目でも、スクーリング科目でも、
・教員が設定した「問い（疑問文）」に従うのか、
・学生自身が、「テーマ（着目点）」を絞り、「問い（疑問文）」を設定するのか、
よく理解することが大切です。

▼以下、リポートを書く〝段取り〟〝プロセス〟を説明します。

**イ　授業＋参考文献の〝概念〟や〝用語〟を理解する。**

●まずは、授業＋参考文献を見て、核心（コア）となる概念や専門用語（テクニカルターム）を理解します。
●そして、重要だと思う点、不思議に思った点、よくわからなかった点、さらに深く調査すべきだと思う点を、複数 メモしておきます。

## ロ　設題をよく見て、何が問われているのか、明確化する。

●授業＋参考文献を土台にして調査を進めるには、以下の2パタンがあります。

α　授業＋参考文献であつかわれた事柄を、もっと詳しく深掘りする

β　授業＋参考文献であつかわれなかった事柄を、広げて調べる

●α・βのどちらが求められているのか、設題をよく見て判別しましょう。

## ハ　どこからデータ・エビデンスを集めるのか、調査対象を考える。

●例えば、以下の本が指定され、以下のような設題が出された、と仮定します。

◎山口仲美（やまぐちなかみ）『犬は「びよ」と鳴いていた―日本語は擬音語・擬態語が面白い―』（光文社新書）

《　設題　》擬音語・擬態語をとりあげて考察しなさい。

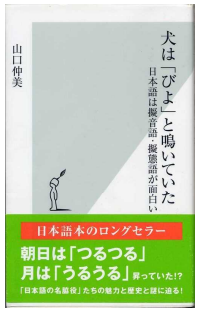
●まずは、指定図書を熟読し、概念や専門用語を理解します。

●次に、〝もっと深掘りすべきだと思う点〟を、書き出してみます。

【例1】現代文学の中の擬音語について調べてみよう

【例2】感情を表す擬態語について調べてみたい

●しかし、これでは、まだ、願望の段階に過ぎません。



具体的に何を調査するのか、対象を絞り込まなければ、作業に入ることができません。

【例1改】町田康の小説の中で擬音語はどのように使われているか？

↓【作業】町田康『ゴランノスポン』の中から擬音語を抽出する

【例2改】「にこにこ」は、いつから「笑顔」を表すようになったか？

↓【作業】『日本国語大辞典　第二版』（小学館）を引き、用例を集める

●このときの、調査方法については、**iii　参考文献を探すコツ**　で解説します。

## ニ　リポートを書き始める前に、「問い」と「目次」を決める。

●右の【例】のように、タイトルを、「問い（疑問文）」の形にすると、明確になります。

●「どのように」「何」「なぜ」などの疑問詞を入れるのがコツです。

【タイトル例】「つらし」と「くるし」はどこが違うのか？

清少納言は中宮定子をどのように描いたか？

なぜ落語の中の泥棒は悪者ではないのか？

●そして、第一節、第二節、第三節……というチャプターを考えます。

自分が持つデータ・エビデンスをどの順番で説明するか、プランを立てるわけです。

▼以上、リポートを書く前の作業プロセスを解説しました。　ちなみに、前掲『レポート・論文の書き方』93頁では、こんな〝不適切例〟が挙げられています。

・テーマの範囲が広すぎる（地球環境問題をどう考えるか）
・客観的な判断基準がない（アメリカの料理はおいしいか）

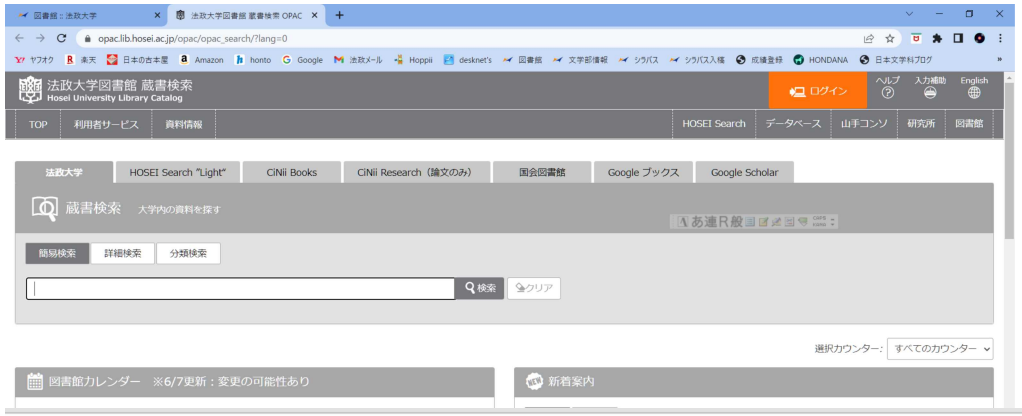
前掲『ダメレポート脱出法』133頁では、こんな〝失敗例〟が挙げられています。

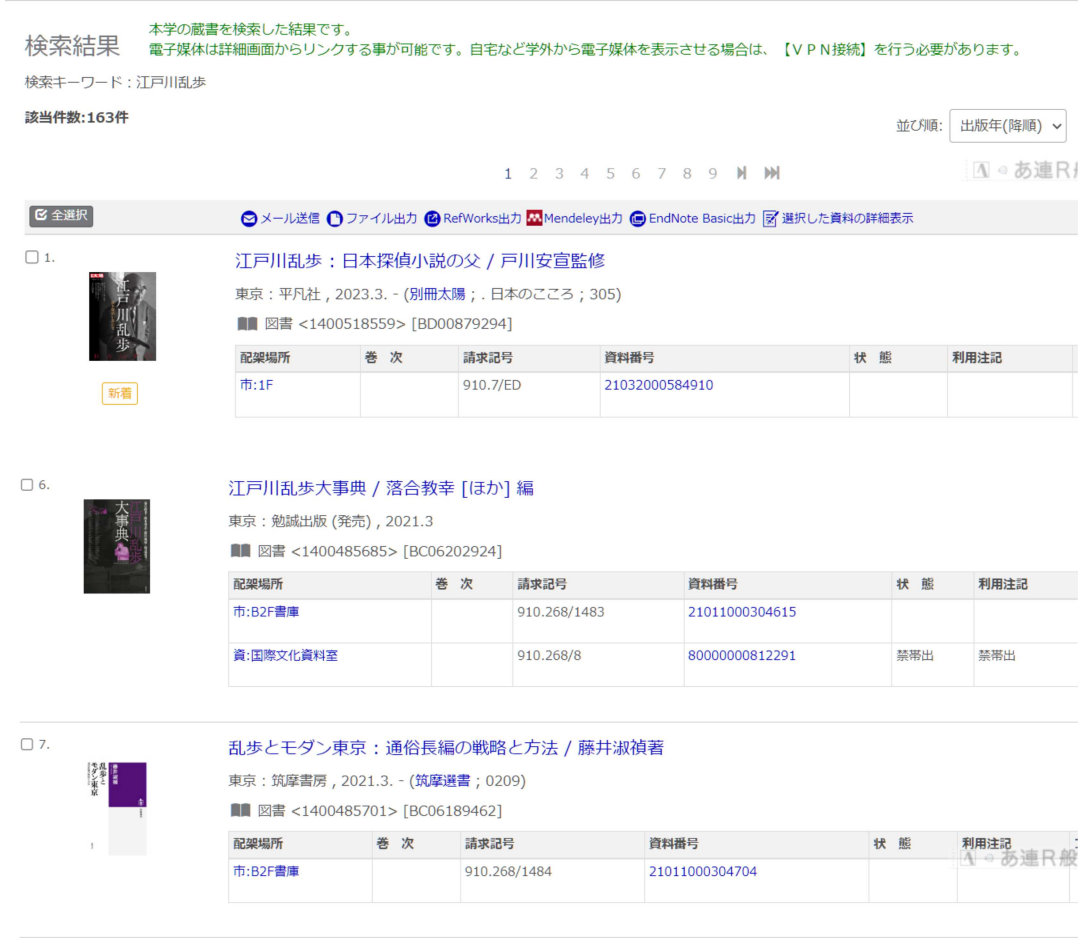
・何を問題とするのかが最初に明示されていない
・タイトルが具体的な内容を示していない

## iii　参考文献を探すコツ

▼文学研究の場合、もちろん、〝解説書や論文を読むのは、作品を熟読した後（あと）〟です。

▼以下、法政大学図書館、ＯＰＡＣ（蔵書検索）https://www.hosei.ac.jp/library/を使って、効率的に、解説書や先行論文を探し出すコツを解説します。



▼図書館ＯＰＡＣを使って、最新の有益な解説を、うまく抽出しましょう。

**コツ１** 検索語を絞り込みすぎては、いけない。

最初は、たとえば「漱石」だけ、「日本語」だけで検索し、

**コツ２** 「出版年（降順）」にして、新しい本から見る。

**コツ３** １人の執筆者が書いた本（単著）よりも、

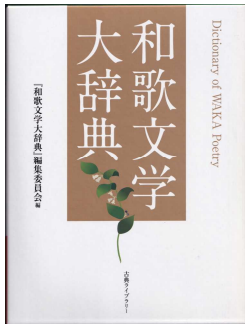
複数の執筆者が、複数のテーマで書いた本（事典、論集）を先に見る。

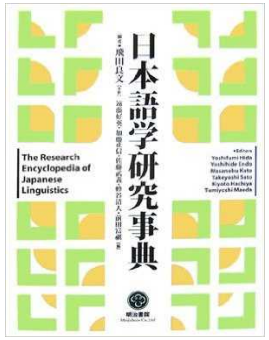
**コツ４** キーワードと、辞典／事典、百科、必携　で検索してみる。

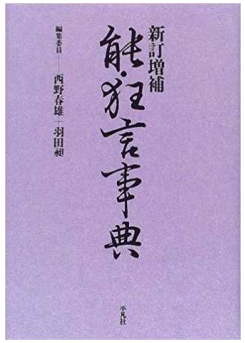
「漱石　辞典」、「太宰　事典」、「日本語学　辞典」、

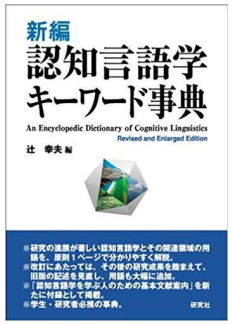
「源氏物語　事典」、「三島　百科」、「谷崎　必携」、など。

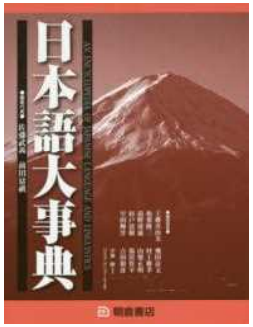
## 文学研究・言語研究のための辞典・事典









▼右の辞典・事典を図書館で手に取り、目次や巻末索引を見てみましょう。
作家の概要や、各作品の概要や、
研究史（何が議論になり、どの説とどの説が対立しているか　等）や、
キーワード（掛詞とか、王権とか、戦争とか、モダリティ　等）
を、複数の研究者が、論文名を挙げながら解説しています。

## ⅳ　オンラインデータベースの使い方

【　学内か、自宅で、ログイン　】

▼法政大学内にいる場合は、法政大学Wi-Fi（ワイファイ）に接続。

▼学外（自宅）にいる場合は、VPN接続をします。

←

①《ユーザ支援WEBサイト》以下をクリック。
https://netsys.hosei.ac.jp/index.html

②「VPN」の中の《利用マニュアルのダウンロード》、該当の説明書をダウンロードし、自宅のパソコンで、VPN接続を行います。

※1度設定すれば、以後は、ワンボタン。

【　オンラインデータベースに入る　】

▼法政大学図書館ホームページ、
「調べる・探す」のタグから、
「オンラインデータベース」を選びます。

▼右上、オレンジ色「ログイン」を押し、
ＩＤとパスワードを入れて、ログインします。

▼「辞書・事典を引く」の中のデータベース、
「日本の新聞記事を読む」の中のデータベース
は、日本文学科の学生がよく使うもの。

## 【 新聞記事検索を使ってみよう 】

▼「毎索」や「ヨミダス歴史館」は、毎日新聞、読売新聞の記事１５０年分を検索して読むことができます。

▼過去に起きた事件、現在の社会問題、作家や作品、日本語の使い方や新語などを調べるとき、非常に便利です。

## 【 ジャパンナレッジＬｉｂを使ってみよう 】

▼ジャパンナレッジＬｉｂは、辞書、事典、文学全集を搭載したデータベースです。『日本国語大辞典』『大漢和辞典』『国史大辞典』『日本古典文学全集』『新編国歌大観』『現代用語の基礎知識』『世界文学大事典』などが利用できます。

【注】使い終わったら、ログアウトを忘れずに！

◎「本棚」→ **新編 日本古典文学全集**

『古事記』『万葉集』『伊勢物語』『源氏物語』～～西鶴、近松、馬琴まで、日本の古典の原文＆現代語訳を、すべて、検索・閲読できます。

◎「基本検索」→→「日本語」→ **日本国語大辞典 第二版**

最大の国語辞典。奈良時代から、平成までの、あらゆる日本語を収録。例文が豊富。語源や方言についての説明も載っている。

◎「基本検索」→「日本語」→ **大漢和辞典**

最大の漢字辞典。中国古典での例文も豊富。

## ｖ　文献を使うときの注意点

▼参考文献を探すことは大切なプロセスなのですが、しかし、教科書、辞書、事典、解説書、論文に載っていることは、〝或る人が述べている1説〟に過ぎません。鵜呑みにしてはいけないのです。

▼我々は、辞書、事典、解説書、論文に書いてあることのうち、どこまでが妥当で、どこからが妥当でないのか、俯瞰的に検討する必要があります。






▼リポート・論文で参考文献を掲げるには、一定のルール（書き方）があります。

### ア　書籍の中の一論文を掲げる場合

【　掲出方法①　】

執筆者名 ← 中上紀 ← 論文や項目のタイトル 「『眉かくしの霊』雪景色の桔梗」（ ← それが収められている書籍のタイトル 『別冊太陽　泉鏡花美と幻影の魔術師』 → 出版社名 平凡社、 → 刊行年月 二〇一〇年三月）

【　掲出方法②　】

執筆者名 ← 中上紀（2010）← 出版年 「『眉かくしの霊』雪景色の桔梗」← 論文や項目のタイトル 『別冊太陽　泉鏡花　美と幻影の魔術師』 → 出版社名 平凡社 → ページ数 P.32-33

### イ　Webサイトを掲げる場合

国文学研究資料館ホームページ、電子資料館「和書のさまざま」https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/index.html（二〇二三年五月二二日閲覧）

## ウ　レポート内での書き方、3例

泉鏡花『眉かくしの霊』に登場する芸者お艶と桔梗ヶ池の奥様について、中上紀は、「二人はまったく別人であるにもかかわらず、ここで同一化し、同一の新たな何者かとなった。」と述べている。(注1) しかし、『眉かくしの霊』を読んでみると・・・・・・

**注**

（1）中上紀「『眉かくしの霊』雪景色の桔梗」（『別冊太陽　泉鏡花　美と幻影の魔術師』平凡社、二〇一〇年三月）

泉鏡花『眉かくしの霊』に登場する芸者お艶と桔梗ヶ池の奥様について、中上紀(注1)は、

> 二人はまったく別人であるにもかかわらず、ここで同一化し、同一の新たな何者かとなった。
>
> （32～33頁）

と述べている。しかし、『眉かくしの霊』を読んでみると・・・・・・・・・・

**注**

（1）中上紀「『眉かくしの霊』雪景色の桔梗」（『別冊太陽　泉鏡花　美と幻影の魔術師』平凡社、二〇一〇年三月）

泉鏡花『眉かくしの霊』に登場する芸者お艶と桔梗ヶ池の奥様について、中上紀（2010）は、「二人はまったく別人であるにもかかわらず、ここで同一化し、同一の新たな何者かとなった。」と述べている。しかし、『眉かくしの霊』を読んでみると・・

**引用文献**

中上紀（2010）「『眉かくしの霊』雪景色の桔梗」『別冊太陽　泉鏡花　美と幻影の魔術師』　平凡社　P.32-33

▼剽窃（ひょうせつ）（無断引用）にならないよう、
他人の文章は、「　」で包むか、2字下げにして、ハッキリと区別すること。
注に、執筆者名・論文名・書籍名・出版社名などを、明記すること。
自分の文章と他人の文章を混ぜるのは、剽窃（ひょうせつ）・盗用（とうよう）（不正行為）です。

▼解説書・論文・辞書・新聞記事……どれを参考にしたとしても、どこからどこまでが他人の文章なのか、明確に区別しないと、剽窃を疑われます。

「エモい」という若者言葉は、英語のエモーショナルを語源にしていて、「心に響く。感動的である。」という意味である。

『大辞林　第四版』(注1)は、「エモい」という言葉を、「〔感動を意味するエモーション（emotion）から〕（主に若者言葉で）心に響く。感動的である。」と説明している（３０６ページ）。

注１　松村明編『大辞林　第四版』（三省堂、二〇一九年）

## vi　リポートを、どのような形に仕上げるのか？

▼リポートの書式は、各科目の設題とともに指示される場合もあります。教員の指示に従ってください。

▼何も指示が無い場合は、以下のようにします。

①対象とする作品・データがヨコ書き　→　リポートもヨコ書き
　対象とする作品・データがタテ書き　→　リポートもタテ書き

②冒頭に、年度、授業名を記す。

③タイトルは、設題で与えられている場合と、自分で考える場合とがある。

④学部学科、学年、学生証番号、氏名　を記す。

⑤「はじめに」で問題設定（どういう問いを立てたのか、宣言する）、以降、１節、２節……　最後に「まとめ」「おわりに」。

⑥末尾に「注」もしくは「引用文献」。
　リポート中で引用した解説・論文の出典を明記する。

▼以下、日本文学科の学生が書いたリポートの実例を、以下に挙げます。
（字数は、２０００字～２５００字ていど。）

▼１点めの物には、遠藤星希先生による、留意メモ（青字）が入っています。
皆さんがリポートを書くときの〝見本〟として、参考にしてください。

二〇◆◆年度「◆◆◆◆◆」リポート

# なぜ男性だけが歌舞伎を演じるのか

文学部日本文学科◆年　12B3456　◆◆◆◆

## 一　はじめに

歌舞伎は江戸時代に発展し、二〇〇八年にユネスコの無形文化遺産に登録された、日本固有の演劇である。特徴の一つとして、「女形（おやま）」が存在し、男性の役だけではなく女性の役も男性が演じることが挙げられる。それでは、歌舞伎を演じるのは、なぜ男性に限られているのであろうか。本稿では、この問題について考察を行う。

## 二　歌舞伎成立の歴史的経緯

歌舞伎はどのように発祥し、どのような過程を経て成立したのか。『日本大百科全書』「歌舞伎」の項によれば、歌舞伎の始まりは阿国（おくに）（一五七二～？）という女性が演じた念仏踊りだとされ、当時の様々な風俗を取り入れた結果、「阿国かぶき」と呼ばれるようになった。「阿国かぶき」は流行や風俗を取り入れた即興的な歌舞であったことや、女性主体で肉体的魅力を売りとしたことが庶民に受け、「かぶきおどり」と呼ばれるに至り、遊女たちも追随して女歌舞伎が全国に広まった、と説明されている（注1）。すなわち、初期の歌舞伎は肉体的魅力を前面に出し、即興的に歌舞する女性主体の芸能として世に広まったということになる。

『国史大辞典』「歌舞伎」の項には、「遊女が主役の女歌舞伎は風俗を乱すという理由で寛永六年（一六二九）禁止され、若衆が女役を演じるようになり、これが若衆歌舞伎（わかしゅ）である」と記述されている（注2）。また、同じく『国史大辞典』「若衆歌舞伎」の項によれば、この若衆歌舞伎は女歌舞伎に代わって台頭したが、若衆（まだ前髪を切ってまげを結っていない、元服前の男子）の役者が男色の対象となったため、風俗を乱すという理由で承応元年（一六五二）に禁止された、と説明されている（注3）。すなわち、幕府による女歌舞伎の禁止で台頭した若衆歌舞伎は、女歌舞伎同様に風紀を乱すとみなされ、禁止されたということである。

その後の歌舞伎については、『日本大百科全書』「歌舞伎」の項に、「1653年3月4日「再御免」となったが、風紀上の弊害を抑えるために二つの条件がつけられた。前

「はじめに（or 序章）」では、リポートの「問い」を提示する。テーマを決めるに至った個人的な経緯は書く必要なし。

段落の頭は一字下げ

書名は『』でくくる。また、辞書・事典類の説明を引く際は、必ず見出し語（項目名）も示すこと。

難読の漢字にはルビを振ること。なお、Word ではルビを振ると行間の幅が開いてしまう。行間が開いた部分を選択して、「ホーム」タブ→「段落」→「行間」→「固定値」→18～19　に設定すると、行間が通常の幅に戻る。

歴史上の人物名を挙げる際は、生没年を示す。

ページ番号を忘れずにつけること

引用文は「」でくくり、地の文と区別できるようにすること。

髪を切ることと、歌舞を控えて「物真似狂言づくし」をやることである。そこで、前髪を切って月代を剃った頭にちなんで、これ以後を「野良（野郎）歌舞伎」という」という記述が見られる（注4）。ここにいう「物真似狂言づくし」とは、『日本国語大辞典』「物真似狂言尽」の項にいうところの、「歌舞伎芝居の異称。江戸時代、承応元年（一六五二）の若衆歌舞伎禁止以後に興行を許可された野郎歌舞伎で、写実風の演劇的要素の濃いもの」を指している（注5）。つまるところ、若衆歌舞伎の禁止によって、成人男性主体の演劇としての歌舞伎が誕生したということになるであろう。

このように、江戸幕府による女歌舞伎の禁止によって男性主体の歌舞伎が広がり、歌舞だけではなく演劇に重きを置くようになったことで、現代まで続く歌舞伎の土台が形成されたということができる。

## 三　新派劇の女形と現在の歌舞伎

新派劇は明治中期に起こった現代劇であり、歌舞伎と、西洋の近代演劇の影響を受けた新劇との中間の位置にある。『国史大辞典』「演劇（近代）」の項によれば、新派劇は、阿国歌舞伎禁止以来、二百六十二年ぶりに女優を登用する一方で、旧伝統の女方俳優を併用していた（注6）。ところが、同じく『国史大辞典』「女方」の項には、「明治時代に生まれた新派劇も女役に女方が扮していたが、今日ではほとんど女優になった」とある（注7）。なぜ新派劇から女形が姿を消したのか。その理由について、増子博調『『かぶき・をどり・女形』――所作事源流考――』では次のように述べている。

女形の仕事はもともと肉体的条件として、女性のしなやかさよりは男性の体力を求めた。しかし演技の上では男の筋骨を隠して、あくまで女にならなければならなかったから、そのための苛酷な試練に女形は耐えたのである。男を生かして男を否定する、この矛盾した作業の厳しさが、すでに述べたように、女形を「女以上の女」に仕立て上げるのである。「女以上の女」とは、もちろん比喩的表現に過ぎないが、論理的には架空の存在、言い換えれば虚構の女、その息づかいは、やはり虚構の場でしか見ることはできない。虚構といえば、演劇自体がすでに虚構であるが、とりわけ、様式化された舞台では日常性が厳しく拒否され、あらゆるものが様式的な舞台構成に組みこまれる限りにおいて生彩を帯びる。そこでは虚構は虚構のままに実存となり、「造花」の女に生命が蘇える。夢幻の舞台に女形の美しさが輝くのである。写実的なリアリズムの演技が、こうした舞台になじまぬことは言うまでもない。逆に、女形の芸がリアリズムの演出になじまず、女優と競演して浮き上る結果になるのも当然の成り行きである（注8）。

引用部が長くなるときは、このように全体を二字下げにすること。

論文名・作品名は「」でくくる。

リポートの筆者が、強調するため引用文に傍点をつけた場合は、引用部の末尾に（傍点は筆者による）と記すこと。ここでは原著に傍点がついているので何も記していないが、（傍点原著）と記す場合もある。

すなわち、様式化された虚構の世界、歌舞伎の演出の中でこそ、性差を越えて女性らしさを追求した女形の芸は映えるのであり、「リアリズムの演出」や本物の女性とは調和しなかったということである。

また、引用部冒頭の「肉体的条件」について、増子氏の同論文中には、「女形に男の体力が求められるのは、重い衣裳に激しい動き、広い空間によく通る声等の条件に耐えうる筋力を、女性にはほとんど期待できないからである」と述べられている(注9)。

増子氏が述べた歌舞伎の様式美と女形との関係や、演者の肉体的条件は、現代における歌舞伎にも適用可能であろう。歌舞伎では現在も古典演目が上演され、様式的な演技や演出が伝承されている。故に、歌舞伎の女性役の演者として、女優よりも女形のほうが適している状況は変わらないのではないか。また、一般的に女性より男性のほうが体力や筋力があることは、現代においても変わらぬ事実である。演技に体力を求められる歌舞伎で、男性が女性を演じることは理にかなっているのではないだろうか。

## 四　おわりに

「おわりに（or 終章）」では、「はじめに」で提示した「問い」に対する「答え」を提示する。「問い」と「答え」が噛み合っているかを、よく確認すること。

本論では、まず第二章で、男性主体の演劇としての歌舞伎が形成された歴史的経緯を追った。江戸時代に女歌舞伎が禁止され、若衆歌舞伎の禁止から野郎歌舞伎が誕生したことで、男性主体の歌舞伎が確立したということができる。

続いて第三章では、新派劇から女形が姿を消したことに触れ、現代における歌舞伎の在り方と関連づけて考察した。歌舞伎の演目における女性役の演者として、歌舞伎の持つ様式美との調和や演者に求められる体力の点で、女形が適しているために、現在でも変わらず男性だけが歌舞伎を演じているのだと結論づけたい。

注

（1）『日本大百科全書』（小学館、一九九四年）「歌舞伎」の項を参照。
（2）『国史大辞典』（吉川弘文館、一九七九―一九九七年）「歌舞伎」の項を参照。
（3）注（2）前掲書、「若衆歌舞伎」の項を参照。
（4）注（1）前掲書、「歌舞伎」の項を参照。
（5）『日本国語大辞典（第二版）』（小学館、二〇〇〇―二〇〇二年）「物真似狂言尽」の項を参照。
（6）注（2）前掲書、「演劇（近代）」の項を参照。
（7）注（2）前掲書、「女方」の項を参照。
（8）増子博調「『かぶき・をどり・女形』――所作事源流考――」（『山野研究紀要』六巻、一九九八年）三一頁。

複数の版（Edition）がある辞典を掲げる場合、「第何版」であるのかを書誌情報として示すこと。

（9）注（8）前掲論文、三七頁。

参考文献

・『日本大百科全書』（小学館、一九九四年）
・『国史大辞典』（吉川弘文館、一九七九―一九九七年）
・『日本国語大辞典（第二版）』（小学館、二〇〇〇―二〇〇二年）
・増子博調「『かぶき・をどり・女形』――所作事源流考――」（『山野研究紀要』六巻、一九九八年）

二〇二一年度　春学期「●●●●●●●●●●」リポート

# 新しい『こころ』論によって解釈はどのように変化したか？

文学部日本文学科　1年　21●●●●　■■■■

## はじめに

『漱石辞典』[注1]および『漱石作品論集成　第十一巻』[注2]では、夏目漱石の『こころ』[注3]について、一九八〇年代後半に新しい『こころ』論が提出され、作品解釈が次の段階に進んだと述べられている。

本稿では、小森陽一と石原千秋を中心とした新しい『こころ』論が何をどのように論じたのかを確認し、その他の研究者がどう反論したのかを見ていく。

## 第一節　小森・石原は、先行研究をどのように批判しているか

従来の『こころ』論について、小森陽一「『こころ』を生成する心臓（ハート）」は、次のように述べている。[注4]

高校の国語教科書や大学の一般教養向け教科書に、最も象徴的に現われているように、『心（こゝろ）』は、「下―先生と遺書」のみを他から切り離し、それだけを中心化し、〈作者〉漱石の思想と倫理を解釈する対象として、〈作品化〉化されてきたのである。

また、石原千秋「「こゝろ」のオイディプス」は、次のように述べている。[注5]

これまでの「こゝろ」論は、青年を一人の自立した登場人物として作品の全体像の中で位置付け、意味付けることがほとんどなかった。

従来の『こころ』論では、「下　先生と遺書」のみを中心化しているため、「上　先生と私」「中　両親と私」に登場する「青年」に着目した解釈は、ほとんどされなかったと言える。

## 第二節　小森・石原の新しい『こころ』論とはどのようなものか

小森と石原の新しい『こころ』論は、「上　先生と私」の次の一節に着目している。

> 私はその人を常に先生と呼んでいた。だから此処でもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を憚かる遠慮というよりも、その方が私に取って自然だからである。私はその人の記憶を呼び起こすごとに、「先生」と云いたくなる。筆を執っても心持は同じ事である。余所々々しい頭文字などはとても使う気にならない。（7頁）[注6]

この表現について、小森は、次のように述べている。

「先生」のKに対するかかわり方（記憶）が、「よそよそ」しいものであったことを示している。（中略）「私」は一方で「先生」という存在全体に共振し同調し、その生を反復しながら、他方「先生」が残した「遺書」の書き方（そこにおいて言葉化されている他者とのかかわり方、他者をめぐる記憶＝過去のあり方）に対しては、徹底して差異を強調する。

一方、石原は、次のように述べている。

先生への敬愛の情の表明の形を借りた隠微な批判であるだろう。先生の遺書の全体をも否定するような言葉で青年の語りが始められている。

青年の「余所々々しい頭文字」という表現は、先生の遺書を批判するものであり、青年と先生の〈他者とのかかわり方〉の違いを明らかにしていると言える。

## 第三節　以降の研究者はどのように批判したか

小森・石原に対して、三好行雄は、次のように異論を述べている。(注7)

遺書の「表現構造」のすべてを差異化する「私」の意思までを読みとるのは、奥さんはいまも知らないという一行に徴しても、いささか深読みにすぎるというのが、率直な感想であった。

右の「奥さんはいまも知らない」という言葉が含まれている、『こころ』の一節を確認する。

> 先生は美くしい恋愛の裏に、恐ろしい悲劇を持っていた。そうしてその悲劇のどんなに先生に取って惨なものであるかは相手の奥さんにまるで知れていなかった。奥さんは今でもそれを知らずにいる。先生は奥さんに隠して死んだ。
>
> （４０頁）

また、大原祐治は、次のような新たな可能性を示している。(注8)

「K」という頭文字は姓ではなく、改姓前から長らく呼び慣わしたファースト・ネームに由来するものだった可能性もある。これは果たして「余所々々しい頭文字」なのだろうか。（中略）「先生」は「其人の名」を自分だけの親密さの中にとどめるためにこそ「K」という頭文字を使用したのであり、「私」はそれを誤読していたのかもしれない。

つまり、三好も大原も、小森や石原の解釈を、再び「下　先生と遺書」の表現に引き戻して、再検討しようとしている。

## まとめ

小森・石原を中心とした『こころ』論によって、「下　先生と遺書」を中心とした解釈だけではなく、「上　先生と私」「中　両親と私」に登場する「青年」にも着目した解釈へと変化した。そして、それらは、再び「下　先生と遺書」の読み直しに向かう、新たな解釈への進化すると考えられる。

### 注

（1）小森陽一編『漱石辞典』（翰林書房、二〇一七年）の「こころ」の項

（2）玉井敬之・藤井淑禎編『漱石作品論集成　第十巻』（桜楓社、一九九一年）

（3）夏目漱石『こころ』が最初に発表されたのは、『朝日新聞』一九一四年。

（4）小森陽一「『こころ』を生成する心臓（ハート）」（夏目漱石『こころ』巻末解説、筑摩書房〈ちくま文庫〉、一九八五年一二月。初出は『成城国文学』一九八五年三月号）

（5）石原千秋「「こゝろ」のオイディプス―反転する語り―」（玉井敬之・藤井淑禎編『漱石作品論集成第十巻』桜楓社、一九九一年。初出は『成城国文学』一九八五年三月号）

（6）『こころ』本文の引用は、新潮文庫（二〇〇四年改版）に拠る。

（7）三好行雄「ワトソンは背信者か」（玉井敬之・藤井淑禎編『漱石作品論集成　第十巻』桜楓社、一九九一年。初出は『文学』一九八八年五月号）

（8）大原祐治「こころ　名前と私的領域」（小森陽一編『漱石辞典』翰林書房、二〇一七年）

２０１７年度秋学期「◆◆◆◆◆◆◆◆◆」リポート

# テレビＣＭではどのようなメトニミー（換喩）が使われているか？

文学部日本文学科　１年Ｇ組　17●●●●　　◆◆◆◆

## １．はじめに

メトニミー／メトノミー metonymy とは、比喩の一種で、「換喩」と訳される。課題図書『言語学入門』（注１）では、「今日の夕飯は鍋だ」という例が挙げられ、「隣接性ないし関連性に基づく比喩」と述べられていた。

本発表では、まずメトニミーがどのようなものであるか確認し、その上で、テレビコマーシャルでメトニミーがどのように使われているのか、実例を挙げて考察してゆく。

## ２．メトニミーとはどのようなものか

まず、『新編　認知言語学キーワード事典』（注２）で、メトニミーの解説を見ておく。

> **換喩／メトニミー　metonymy**
>
> 換喩は主要な比喩の１つであり、単一領域内の要素の隣接性に基づく。

注目したいのは、この「隣接性」である。同事典は、以下のように解説している。

> **隣接性　contiguity**
>
> 隣接性とは、２つの要素が空間的・時間的・因果的に接近して生じることで結ばれる関係のことを言う。

例えば、「**太宰治を読んだ**」というメトニミー表現は、「**太宰治**が書いた小説**を読んだ**」という意味を表す。「太宰治」と「小説」との間に「隣接性」があるわけである。

もし、「**木村拓哉を読んだ**」と言ったとしても、「**木村拓哉**が書いた小説**を読んだ**」という意味だとは理解してもらえないだろう。「木村拓哉」と「小説」の間に「関係性」「隣接性」がないからである。

佐藤信夫『レトリック認識』（注３）では、メタファー（隠喩）やメトニミー（換喩）は、芸術的表現なのではなく、「表現者の感覚や認識を素直に反映したもの」と述べられている。つまり、メタファーやメトニミーは、一般の人々がごく自然に使用するものであり、同時に、それを聴く人々も、その言葉の隣接性（語と語の関係性）をごく自然に認知できるものだと言える。

では、以下、具体例を検証してゆく。

## ３．テレビＣＭ内の用例

２０１７年１１月２１日（火）朝６～８時と、２８日（火）夜１１～１２時、日本テレビで放映されたＣＭから、メトニミーに当たると思われるものを収集した。

| | |
|---|---|
| A　のど直接うるおう。応援するのどにも | 【龍角散ダイレクト（のどの薬）】 |
| B　頭を賢く使えるものと | 【レッドブル（エナジードリンク）】 |

体の一部を表すメトニミーである。A「応援するのど」は「(野球やサッカーの試合で)応援する人の咽喉」を表す。B「頭」は「頭脳」「能力」を表す。

| | |
|---|---|
| C　……は、日本の小さな命を守り続けてきました。 | 【ミルトン（小児用の薬）】 |
| D　画面が消えても、水に濡れても、 | 【ａｕ（スマートフォン）】 |

C「小さな命」は「小児」を表す。「命を守る」は日常でふつうに使う表現である。D「画面」は「映像」を表す。「画面が消える」も日常でふつうに使う表現である。

| | |
|---|---|
| E　平日の夜が、もっとおいしくなりました。 | 【パナソニック（調理家電）】 |
| F　現場が認めた、除菌力をご家庭へ。 | 【パナソニック（空気清浄機）】 |

これは、日常では使われない例。E「平日の夜」は「平日の夜の食事（夕食）」を表す。F「除菌力」は「空気清浄機」を表す。「夜が→おいしい」や「〇〇力を→家庭へ」という繋がりは、日常言語として不自然である。ＣＭらしい凝った表現だと言える。

| | |
|---|---|
| G　ヤクルトは、続けるほど、笑顔になる。 | 【ヤクルト（乳酸菌飲料）】 |
| H　指一本だけで、自動駐車。 | 【日産（自動車）】 |

動詞に続く例である。G「ヤクルト→続ける」は「ヤクルト（乳酸菌飲料）を毎日飲み続ける」を表す。H「指一本だけで→自動駐車」は「人差し指でボタンを押すだけで→自動で車が駐車位置に止まる」を表す。日常言語としては、さほど不自然ではない。ただし、これほど多くの言葉を補わなければならないメトニミーは例外的で、追調査を要する。

## ４．まとめ

「太宰治を読んだ」というメトニミー表現は、一見、省略形であるかのように見える。しかし、そうだろうか？　テレビＣＭの例で考察したように、省略された部分を補ってみると、かえって不自然になったり、長くなり過ぎたりする。A・B・C・D・G・Hは、決して凝った省略形を用いたのではなく、無意識の自然な言語運用だと言える。

### 注

（１）佐久間淳一・加藤重広・町田健『言語学入門―これから始める人のための入門書―』（研究社、２００４年）
（２）辻幸夫　編『新編　認知言語学キーワード事典』（研究社、２０１３年）
（３）佐藤信夫『レトリック認識』（講談社学術文庫、１９９２年）